

イケア・ジャパン株式会社 東日本大震災への支援のステップ



イケアの企業理念「より快適な毎日を、より多くの方に。」

イケアの企業理念「より多くの毎日を、より多くの方に」を東北でも実践すべく、震災直後から被災地での実践を決定いたしました。

支援のステップと東北におけるビジネスのイニシアティブ

イケアは被災地を復興におこなうために支援をおこなうため、次のステップによって実施されております。



震災直後より緊急物資支援を開始



仮設住宅への生活に必要な商品を提供



2012年9月 支援拠点的店舗 IKEA仙台ミニショップをオープン



2013年春より 長期復興支援「東日本子どもプロジェクト」を開始



1 ステップ1: 避難所への緊急物資支援

3月14日より各避難所へ必要な物資をお届けしました。その際には子どもの心のケアとして生活物資支援品と一緒にソフト玩具をお届けしました。

2 ステップ2: 仮設住宅への生活スタートキットの提供

仮設住宅での生活のスタートに欠かせない生活スタートキットを各仮設住宅へお届けしました。

3 ステップ3: IKEA仙台ミニショップのオープン

イケアのリーズナブルな商品がいつでもお買い求めいただけるように、仙台市東区に被災地復興拠点的店舗「IKEA仙台ミニショップ」をオープンいたしました。

4 ステップ4: 「東日本子どもプロジェクト」スタート

長期的支援が必要であると判断し、イケアが「世界で一番大切な存在」と考えている子どもを長期に支援するプロジェクトへ移行。2年間にわたり2億5千万円の活動資金をもとに、次の3フォーカスにわたり活動開始。

- 保育環境の支援
- 遊びの支援
- 学習環境の支援

5 ステップ5: IKEA仙台オープン

2014年内に仙台市東区と長町に店舗をオープン予定。さらにもっとリーズナブルな商品をお客様に提供いたします。また現地の雇用のお手伝いをおこないます。



イケア・ジャパン株式会社
会社概要



イケア・ジャパン株式会社

会社名:	イケア・ジャパン株式会社
住所:	〒273-0012 千葉県船橋市浜町2-3-30
代表者名:	代表取締役 三カエル・バルムクイスト
設立年月日:	2002年7月1日
国内事業所:	国内6店舗 (2013年5月現在、支店同有店舗IKEA仙台三 ニショップを除く) IKEA船橋・IKEA港北・IKEA新三郷・IKEA鶴沼・IKEA神戸、 IKEA福岡新宮 IKEA立川 (2014年春オープン予定) IKEA仙台 (2014年内オープン予定)
海外事業所:	世界26カ国、343店舗 (2013年5月現在)



イケア・ジャパン株式会社
東日本こどもプロジェクト 連絡先

東日本こどもプロジェクト

プロジェクト・リーダー:	北野博子 (IKEA仙台三ニショップマネージャー)
プロジェクト・コーディネーター:	中山弘子
連絡先:	IKEA仙台三ニショップ (支店同有店舗) 〒981-3205 宮城県仙台市東区葉山1-1-4 葉山プラザ9階 022-3775952 (IKEA仙台三ニショップ代表番号) 080-2674-1977 (中山 直通) ejjcp.jp@ikea.com, Niruka.nakayama@ikea.com

より快適な毎日を、より多くの方々に

イケアのビジョンは「より快適な毎日を、より多くの方々に」。優れたデザインと機能性を兼ねそなえたホームファニッシング製品を幅広く取りそろえ、より多くの方々にご購入いただけるよう出来る限り手ごろな価格でご提供するという、イケアのビジネス理念が、このビジョンを支えています。

高級で美しいもの、安価で質の良いものなら、誰にでもつくれます。でも、手ごろな価格で質の良いものをつくるには、コスト効率性と革新性を併せ持った新たな生産方法を開発する必要があります。これこそが、スウェーデンのスマーランド地方で創業した当初から、イケアの強みでした。原材料を最大に活用し、人々のニーズや好みに応じて製品を最適化することで、私たちは低コストを実現し、期待したコストをお客さまへ還元しています。



世界でいちばん大切なのは、子どもたち

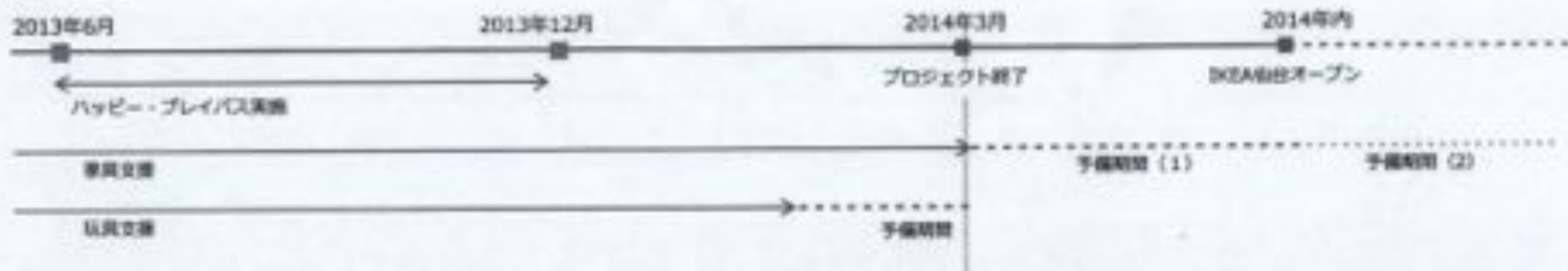
イケアは、世界のどこに住んでいようと、すべての子どもたちが健康で安全な子ども時代を送る権利があると信じています。そのためには心身の健やかな成長に欠かせない十分な適「遊び」と、質の高い教育が大切であると考えています。その実現のためイケアはIKEA Foundationを設立し子どもたちが人生のよりよいスタートを切れるよう、長期的・短期的プロジェクトを実施しています。現在、1億人の子どもたちがプロジェクトのサポートを受けています。

また日本での取り組みとしてイケア・ジャパンは再生エネルギーの活用などの環境と社会への取り組みをおこなっています。

「東日本こどもプロジェクト」をはじめとする東日本大震災への支援はそのなかの取り組みのひとつです。より迅速に、またニーズに沿った支援をおこなえるよう活動をおこなっております。



支援スケジュール



これからの課題

プロジェクトを開始して一年が経過し、企業での支援の楽しさを感じるとともに、企業でなければできないこともあると再認識しております。

プロジェクト終了を見据えて、あたためてイクア店からできることにさらに特化し、イクア各業口株が支援軸の「継続可能なこと」への支援に直接つながるようになるよう努めたい。

<現在の課題>

- 社内のリソース不足
 - ➡ 社内ボランティアのさらなる活用・社内事前調整の迅速化
- 終了が前提としてのスケジュール
 - ➡ 支援要請側へのクリアなスケジュール提示
- プロジェクト終了後の支援の関わり方について
 - ➡ 既存の組織・仕組みの活用
 - ➡ サステナビリティとしての取り組み

東日本子どもプロジェクトの終了に向けて

東日本子どもプロジェクトの終了（2014年3月）に向け、リソースなどを現在おこなっている家具支援などに重点を置く予定です。また、企業支援が少なくなっている震災2年の今だからやるべきことを再度見直しをおこなっております。

これと同時にイクアの東北支援の5ステップの最終ステップ「KEA仙台のオープン」への準備をスタートいたします。

「より快適な毎日を、より多くの方々に」の企業ビジョンのもと、さらにお求めやすく、機能性に富み、デザイン性に優れている商品を提供できるイクアストアを被災地で展開することでお子さまがいるご家庭をはじめ、子どもを取り巻く環境で小売り事業者としておこなうべきことを継続的におこなってまいります。

